

世界にはばたく学生たち 秋田の大きな財産に

国際社会に通用するグローバルな知識、教養と英語力を備えた人材づくりを理念とする国際教養大学。高水準の教育レベルと独創的なカリキュラムが国内外の注目度を高めているなか、中嶋嶺雄理事長・学長に開学5年目の手応えや抱負などをうかがった。

「昨年初めて送り出した卒業生の就職状況は。」

企業の評価は非常に高く、昨年3月卒業の就職希望者は全員就職し、セメスター制による8月卒業の学生も一流の就職先に決まった。今春の2008年度卒業見込み者も銀行、商社、航空会社、食品会社など外資系も含め多くの大企業が採用の見通しだ。しかもそれらの企業が相次いで本学を訪れて企業説明会を開き、その場で面接、内定というケースもあったほど。我々の建学の理念が社会に受け入れられたと考えている。

「全国からいかに優秀な学生が集まっているかを裏付けているといえそうだが。」

代々木ゼミナールの09年度国公立大学入試難易度ランキング表をみると、本学C日程が「経済・商・経営学系」「国際・社会学系」「人文系①(文学・語学・文化・教育・史学)」の全分野でポーターライン93%となり、開学5年目で東大の92%を抜いて全国1位になった。とはいえ偏差値だけが高い学生を取るということではなく、個性的な学生を入学させ、育てていきたい。

「教職課程」「専門職大学院」を新設したが、その狙いは。」

教職課程は立派な英語の先生になりたいという学生のために設置

した。将来、秋田の教育界に大いに貢献するだろう。開学時から目標だった専門職大学院は社会に貢献できる人材づくりが狙いだ。これからの時代に大事だという意味で「グローバル・コミュニケーション実践研究科」にした。また本学は既にセメスター制、ギャップイヤー制、GPA(成績評定)の算出・活用、カリキュラムの国際コード表示など国際標準の教育システムを導入している。世界の大学と十分な交流ができる。

「秋田に国際教養大が存在する意義についてはどう考えているか。」

全国から集まった学生は必ず1年間海外留学するほか、世界各国から多数の交換留学生が来ている。昨年9月には世界42大学から90人もの留学生が入学した。つまり本学は国際的な受発信の拠点であり、こういう場が秋田にもっとあれば、秋田はものすごく活力のある県になるはずだ。県内への就職実績はまだ多いとはいえないが、そういう点にだけ目を向けるのではなく、発想を転換していただき、この秋田に来て学び、秋田の地で生活し、やがて全国や世界にはばたく人材の存在こそ秋田の大きな財産だと考えてほしい。一方、県民との交流、連携という点では、外国からの留学生が小・中・高校を訪れて外国語で交流する機会などもっと増やしたい。



「新年の抱負は。」

本学への理解が広く得られるようになり、県議会でも多目的ホール建設を認めていただくなど感謝している。今年には創立5周年記念事業を実施するが、その一環で1億円募金への協力を県民や県内企業にもお願いしていきたい。一方、グローバルな視点としては、日本の国際的地位が揺らぎ、存在感が薄くなるなか、国際社会で活躍できる若者がこんなにいるのだと、世界に示せる教育をさらに心掛けた。

「県内高校生へ向けたメッセージを。」

秋田は全国の学力テストで2年連続トップ級になり、全国から注目されている。2年連続というのは偶然ではない。子どもたちが精神的にも安定しているからだともいえる。これからの秋田の一つの道は教育県として日本を引っ張っていくことだろう。小・中学校で基礎を積み上げているので秋田の高校生には将来性がある。ぜひ頑張って本学に入って勉強し、大きな夢と希望を抱いてほしい。

謹賀新年

国際教養大学は昨春に第1期の卒業生を社会に送り出しました。お陰様で就職も進学も極めて好評でした。また、開学以来、強い決意で準備してまいりました専門職大学院(グローバル・コミュニケーション実践研究科)と教職課程も設置できました。

開学5周年の本年は、本学の成果が改めて問われる記念すべき年となります。わが国高等教育界の改革をリードする「国際教養大学の挑戦」は今年も続きます。皆様より一層のご支援とご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



公立大学法人 国際教養大学 Aikyo International University
ウェブサイト: <http://www.aiu.ac.jp/japanese/>
携帯サイト: <http://daigakuic.jp/aiu/>

『秋田さきがけ』 2009. 1. 1